



高西小だより

学校教育目標

夢を切り拓く

心豊かで

たくましい子ども

H24, 3, 9(金) 校長:古屋 N021

東日本大震災から1年!

現実を受け止めて 未来に向けた創造的な復興を!
そのために大事なものは「夢や目標」を持って生きること。

「地震・雷・火事・親父」。恐いものの代名詞として、子どもの頃、よく言われた言葉でした。大正12年の関東大震災のことは、父親から「道で立ってられない程の大きな揺れで倒れるよう座り込んだ。」という話しはよく聞きましたが、私の体験としては、死者行方不明者5千人を超えた昭和34年の伊勢湾台風の方がとても恐い思い出として残っています。隣の家のお蔵に避難する時の息ができないほどの強風やカビ臭い暗い部屋の怖さは今でも忘れることはできません。当時小学1年生の私にも「地震・雷・・・」の言葉通りの自然災害の恐ろしさは分かりました。

しかし、あの3月11日の東日本を襲った大地震の大きな揺れ、そして、その後のテレビ画面で映し出される信じられない津波の光景。私たちは、大きな悲しみと不安を感じ、同じ光景を目にする度にその悲しみが増し、その思いは、1年が過ぎようとしている今でも変わることはありません。さらに、原発事故による放射能汚染は、目に見えない恐怖として物心両面で襲いかかって来ています。

この1年間、多くの日本人が、そして、世界の国々が何らかの形で復旧・復興支援をしてきています。国でも新たに復興庁や復興構想会議を立ち上げ、単なる復旧ではなく、未来に向けた創造的な復興を目指して動き出しています。また、福島原発事故独立検証委員会（民間事故調）による検証も行われ、多くの問題点や課題を明確にして今後に生かそうとしています。しかし、私たちは、被災地の復興の在り方、復興財源確保や資金運用、放射能除去等多くの諸課題に対して論議されているのにも関わらず、現実的な問題として複雑な思いを感じます。それは「できることでしかできない」「しかたない」という思いと「このままじゃだめだ」「何とかしなくては」という思いの葛藤です。被災者が今生きていくことができるインフラ整備、雇用問題等は不可欠ですし、自分（被災者）が生まれ育った故郷でもう一度生活していきたいという気持ちも大切にしていかなければなりません。しかし、将来的なビジョンの具体的見通しが目に見えないための不透明感がその葛藤を生み出しているように感じます。また、天災としての「大地震」と人災ともいえる「原発事故（放射能汚染）」が同時に起こってしまったこともその要因のように思います。

このような中、直木賞作家の高村薫氏は、「**現実を受け止めて先を思考**」することの大切さを新聞記事の中で次のように述べています。「**復興資金は当然、未来のために使わなければならない。未来とは何か。それは子どもたちである。子どもたちのために今、何とかしなければならないことがある。それは教育である。港湾や道路と違い、教育は形のないもの。でも、子どもの教育に手厚いという環境がひとつあると、必ず大人が子どものために定着する。そして、東北を中心に、雇用だけではなく、産業や研究機関、先端技術が集まってくる。そういう生活圏が築けたら理想的。財政難の中で各自治体の要求をひたすら吸い上げる今のやり方では、すべてが中途半端に終わり、新しい廃墟があちこちに残されることになりかねない。住宅や漁港などを集約することで、復興資金を子どもたちの方に振り分けるべき**」であると。ここに「単なる復旧ではなく、未来に向けた創造的な復興」への1つの提唱が示されているように思います。

バブル崩壊後の財政難、少子高齢化、年金問題に直面して未来が見えなくなっている矢先の今回の大震災でした。重荷の上に更に重荷。しかし、私たちは、「できることでしかできない」「しかたない」という思いを「何とかしなくては」という思いに転換させなくてはなりません。その糸口となるのが将来の日本を支える子どもたちです。そして、その子どもたちが「夢や目標」を持つことで生まれる「生きる力」が大きな原動力となって新しい発想を創造するように思います。

国や自治体には、長期的ビジョンを持って、「教育は将来の人という資源への投資」であるという考えに基づいて復興を推し進めて欲しいと思います。そして、私たちは、一歩一歩足下から子どもたちがたくましく生きてゆける力を育むことが大事です。「夢や目標」を持って日々努力を続けること。そこに育まれる「生きる力」こそが、この大震災を乗り越えてゆける叡智となり、未来に向けた創造的な復興に繋がっていくことと思います。

6年生を送る会が行われました！ 2日(金)

今年のテーマは、今までお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えるために「たくさんの思い出をありがとう！6年生！」でした。

2月13日の第1回実行委員会から、新児童会が中心となって取り組みを始めました。まずは、各学年に仕事が分担されました。1年生は花文字作り、2年生は看板作り、3年生は招待状作り、4年生は似顔絵作り、5年生は会場作りとプレゼントのイラストの総仕上げでした。その他にも、各学年の出し物の練習、休み時間を使ってのプレゼント作りや写真撮影など、子どもたちは、テーマの通りに感謝の気持ちを伝えようと一生懸命取り組み、心のこもった楽しい送る会を行いました。



マルマルモリモリ♪～1年生



運動会の勇姿を表現する2年生



この年N01のアニメは？(3年生)



4年生の劇は楽しかったね。



6年生の将来の夢は？(5年生)



6年生はAKBやEXILEの踊りも披露

新児童会役員(実行委員)が見事な司会進行！

司会者の声の大きさや話し方がとても素晴らしく、スムーズな進行と共に明るい雰囲気での送る会をつくり上げました。発表と発表の間には、6年生に関わるクイズを出すなど、飽きさせない工夫もあり、事前の準備も充実していたことが伺えました。



みんなで作ったイラストです。発表の合間のクイズはとても良かったですね。たくさんの保護者が参観しました。

おはなしやさんに蔵書点検をして頂きました！

図書の新着出しが終了し、5日(月)から9日までの間、図書室の約9000冊の蔵書点検が行われました。その大変な数の本を原簿と確認する作業を、この1年間、読み聞かせやお話し会で大変お世話になったおはなしやさんがボランティアとしてお手伝いしてくれました。子どもたちがこの1年間で読んだ本の総数は、23,623冊、一人平均約127冊です。読書大好きな子どもたちが育っている背景には、こうした保護者の方々の支えがあるお陰と深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

